

雨湯嶋道中獨行

特別
ル 3
3617
57



目安の合紋

▲宿次立場下

但し者ありとありある者ありと記す。者ありと記さるるは、者ありと記す。

○街乃船の山内村里寺

社名所小ふある

●街乃船の文中小加り

又た。街乃船の文中小加りて、

山内村里寺社名所小ふある

ふれふふ。是とある

▲分ま乃の市

但し分ま乃の市は、山内村里社名所小ふある。●市とあるは、海乃船の○市とあり名所の

●市又まざれざるためなり

但州城崎浴湯辨

○四禁

一 款湯すばりき事

新湯小入やう。よりた

人一日小二三度ほど

人四五度と定む。ゆる

をよくぼりて是か敷

多く入ふと款湯といふ

一 中江湯に入まじき事

い湯子細あり。人よ害

きぬやうり

一 色慾情心とて是

一 保養破海とて是

公持身れあつひ念相

の多し酒食れ情風ひ

かす。此不入やうの月心ホ

をいふ程下にくま

右四禁とて古來者不の

湯入へくあくらま或る

身を失ふ人なまは。此

四禁は心むらさゆなり。

と怒る程は湯治は終人と

す。人まら此書を熟讀し

て四禁の理を明白なる。

而後教員すべきものや

○地形の大意

温泉は石炭湯とていひて。

但るに圍城係なり。右三

筋あり

播磨 大坂を湯治とて

三田 大坂を湯治とて

福智山 茶より湯治とて

右の道の道も冬岡とて

右の豊岡の二里川舟下ル。

土地全幹しは若るありと一
箱に町長く二つまきれて中
に野を二つそくあり。水一里も
あまは水海あり。さるなる。
寒氣はよく。あまびり。道中
ふ川ふへど。されば春の湯暖
はぬは結氷の湯冷なり。
隙を海まきれたと考て初
べきやうり

○温泉繁昌れ由来

温泉類合五つ有。中の西は
口は有然あり湯と云。次と中

の湯といふ。今つ陣やれ湯と

といふ。又上れ町右側はあり。成

は不れ湯といふたよふ入と

有代。ゆんだ湯といふ。都

合あり。今つ陣やれ湯と

て。ちの人入とやらず。たよこらひ

り。は又非人ゆと云あり。古来

高木れ油と云。成家さる。醫

人有といふも。ふふれ。後

割良湯を。あじと云。いみ

恐是。毒湯を。う良湯あり

とて。探員下と有く。わ

ゆん元禄の比。京都良山

後藤氏此のみ来りて
ぐく試み涼く考てあり
ゆい云双れ良湯るまは足
を一つ一とて諸病是入
るし沸水の湯ぢんぶ
湯のあり湯と何れ性
よりなるしとて人
中風は老人など久しく入
て不て用と定めしより
其嗣椿庵山人秀庵氏
等の作れる書に述と詳

弁せしむる。しるはぬ
世間は其奇功有と知るを
きびやく守嶮きびやくと
こと何ては事この成ぬ

○温泉五つ次

○新湯 一名口の湯
又山口の湯

下の町けいよあり此湯
熱く清潔なり。この湯と
云はるきりてこのゆ。これゆ
と入也。幕湯と。一日
これ互らむひに入。昔
まの幕を止ち中れんと

竹をとばし。男女をたぢよ
かけ。湯女足を制して。か
し。六件此湯れ功能。経絡
筋骨の回れ滞を通し。五
件を温免。手血巡る。た
胎毒瘡毒ちんは。自然に
其毒退出し。瘡を生じ。瘡
血切疵ちんは。其血うみは
て。後愈ゆ。ゆ。一旦難
系ぬ事いねど。足温め巡る
すあられ。終に病れ根を
ぬく。吉相なりと。合点を

なり。此道理と考へ。身長
く入家よ。ほむ。漸く巡りて。
中れ毒を出入る。ゆ。ゆ。ゆ。
種物其病。自然よりゆと
ちん。

中の湯 一名かき湯

あゝ湯れた。ちん。びてぬ。
阿き。白ひあて。ぬ家。
若石湯。しん。あて。生性
冷ちる。ゆ。腫れ切疵。乃類
先愈す事。妙なり。あて。
瘡湯。しん。一旦名にた

功ありぬるも作とい
 やし。瘧を退也。毎夜の
 時。其病は氣を百倍し。或は
 急死して。其害も甚き也。
 故に此湯に入ると。瘧疾を四
 禁の二つとん

常湯 上湯

中の湯のたよりけ湯は
 あれは妙湯といふとあり
 新湯と今時の湯は入ら
 ず。ありありありあり

神水湯

上の西右例あり。湯と性同
 じ。けさくきくのみあり。湯乃
 切れて去る。別て中風の老
 人。病浮のふくく入て功あり

せんが湯

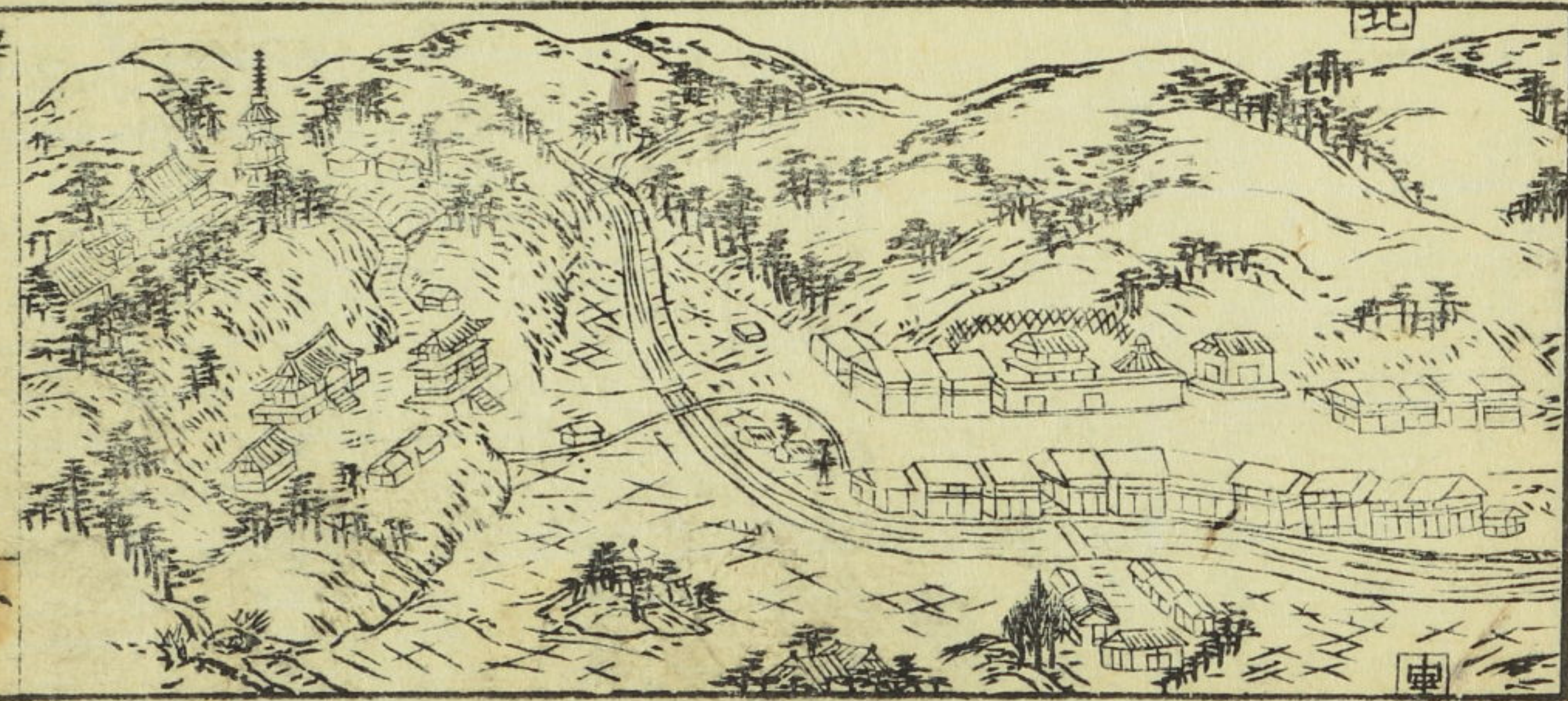
所所湯れ向ひ。また丁子の
 引きてあり。湯を二つあり
 東の湯は性同すと。瘧を殺
 し。神水トクがきくのみあり
 湯のあけて去る。別てけ湯は此
 地根元の湯にて。神水湯は
 以上三つ上の湯は。あはれ別を

成り上り新湯清雨の湯やん
かゝ湯と日本第一と云ふ但る
湯治と云ふ此二つの湯や
かゝ湯と湯屋の人の中の所り
宿の清雨の湯やんが湯屋の
人の所の宿やんをさきかちり

○あゝ湯と中の湯とれ功
能。黑白明白なる。おみ
まあぐあし。ちうせども。一
なる。と。念ふ。これ。是。別。有
に。より。眼。前。れ。ち。う。に。違。ひ
まららぬ。て。官。儀。招。く。人。世

に。ま。り。亦。此。世。理。儀。な。ぬ。ま。
或。中。れ。湯。を。採。取。し。て。ま。じ。る
と。有。病。に。よ。り。中。れ。湯。と。あゝ
ゆ。と。分。て。指。圖。す。も。あ。り。秘
阿。ゆ。ま。へ。く。悪。物。を。進。出。後
中。乃。湯。又。入。て。る。に。べ。と。ま。ま
有。何。も。誤。ち。り。あ。ら。い。て。し。
降。る。る。白。も。瘡。毒。殺。し。て。た
へ。か。ら。た。事。あ。ら。ね。ば。弱。弱。体。て
ち。一。戯。し。中。の。湯。と。い。へ。ん。
い。あ。然。不。辨。し。て。但。る。湯。治。と。の。ま
あ。ら。ん。大。ち。う。ら。い。が。あ。ら。ぬ。べ。

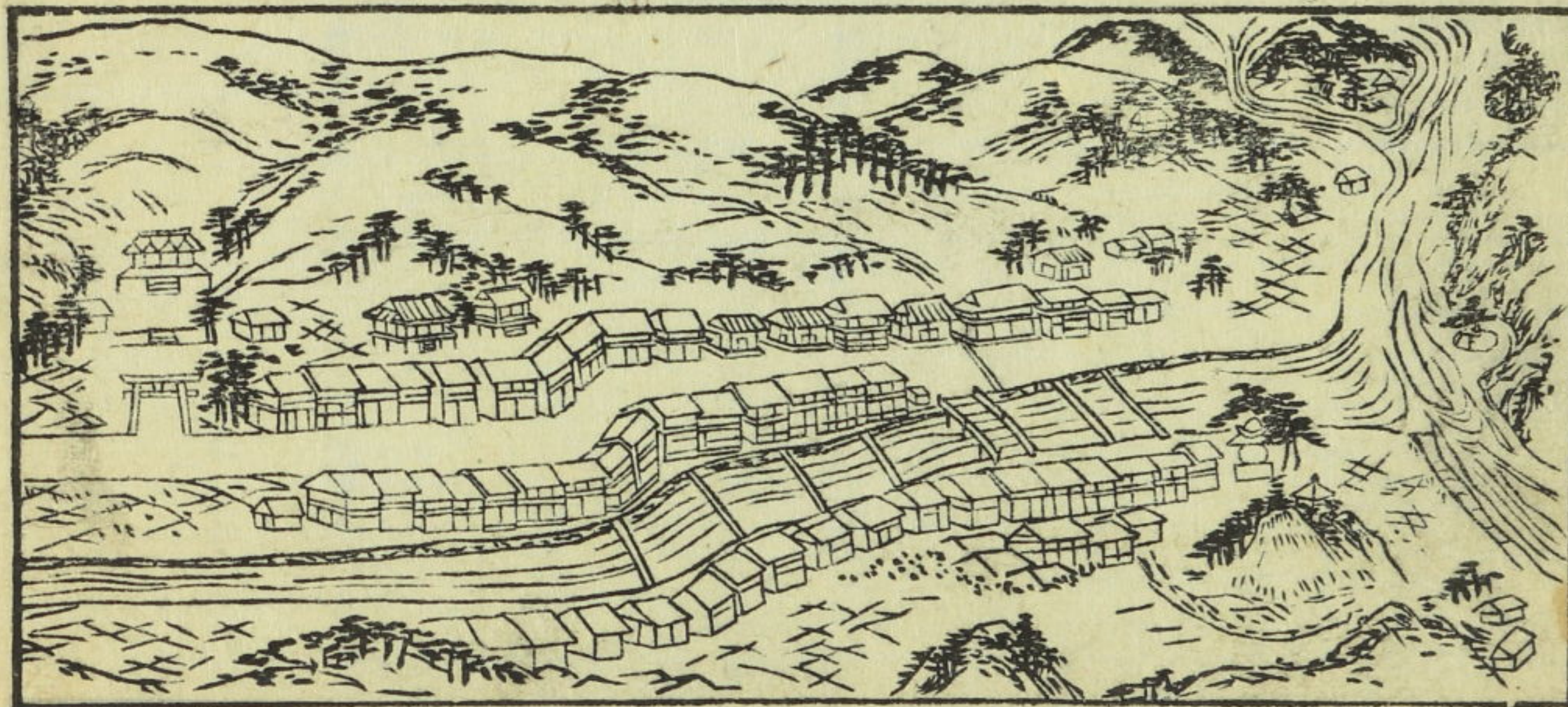
辛



北

南

辛



○あし湯功能

骨痛 下痢 便毒

雁来瘡 痲病 痔類

諸惡瘡

右の湯も功あり。但瘡毒と
いふ。大かゝ念ても少のこれに
子成へて又發す。發すまは必
いふ。念より重し。故にうまひの
念をばしたるは無し。只
此湯に入て。楊梅瘡や。十
に發するは。一。且毒深
き人。必す。子やう。おるも

そららびて。音らるるも

子に付と。毒。甚るる。たおや

まば。根を。根を。根を。根を。

すだ

結毒 瘰癧 脚氣

損傷 中風 麻木

凡何病も。肩背。手足

やど。或は。瘻。或は。或は

引けり。瘻。或は。或は。瘻

いせん。田。田。田。田。田

疝。疝。疝。疝。疝。疝。疝

遺尿。遺尿。遺尿。遺尿。遺尿

あてはざる病痼疾を成て
多し。針灸薬餌功を
き。病を治す。氣血和し。
積を去る。氣を治す。治する。
の白なる。道理をたす。安之
ざる。医人も多し。可也。
婦人の經病。常下を治す。よ
はて。子たれ女。湯治。後。後
妊す。胎し。多し。按引。有る。
此。湯。煎。紀。龍。神。考。乃。
湯。お。應。功。あ。れ。也。此。湯
に。及。び。唯。此。あ。り。也。日本

至極とん

○湯治法

先湯ぬのに降て。其板同と。
湯めて。温め。去塵して。い。中
を。の。湯。を。汲。両肩腋
背。灸。かけ。板。敷。洗。い。
く。も。氣。を。ゆる。め。する。也。
小。便。水。あ。ら。び。する。ぬ。く。て
後。湯。中。に。は。り。体。を。あ。ら
り。より。又。本。洗。下。安。坐。し。湯
を。ぬ。る。ゆ。は。り。也。此。一。也。
湯。中。に。は。り。度。二。三。度。して

陸分々我豊に持氣を對
死と。さびきさびきなるほど日
日ありきとす。若眠人多
かて。たましく昼寐せだ。
能おを若て。夏風やどい
と。移るべし湯治れらむ。
毒氣ひらき。風ひれやすけ
まばやう。浴衣をかか。
お移るうやとす。かたは。酒
をひきさびき人のす。老弱の
人の日に二三度。壯健の人
四五度ふさべうだ。湯敷と

のへて。功ありものふあうだ。
只日敷を入る。大さの
人。二三日と志し。三日後人
長しとさう。怪れ病いとも
あふれだ。とるぐ湯治ると
人多くは。身来の痼疾は
まだいぞ。速功ありさ。と
四十日より。或は半年。一ひ何
分其病。念る休期とす。べ
し。志は。賢大夫まらる人む
さびり入て。あうとさ。さ
あはだ。ほ日いらうて。敷き

腹痛と云。又八日迄の身つ
ぶきをぞめり。されば戒て。飲
湯すべからず。是四禁れ三
ちり

入湯して二三日後胸後
すれ。食すむい湯おぼ
ちり之にお應る終に必不
食す。但其時二三日休
再入てよれもあり。よれれば必
食すむ。續て入べり。と
食すむ。如く不食たれば。
入るべし。病治せぬは

ら。す。言あり

四又日の後一日よ二三日。七
八夜腹下り。或は腰下り。後
つみ。大便甚くする有。
是湯おぼれ。ちり。ちり。
ちり。茶用むべからず。其
は湯に入ま。自然止
む。但諸人皆。物らわら
ず。大便秘す。大の功
少し。又食す。み。大便湯り。
食事に合せ。大便少
やうこそあり。又おぼれ

種あり

湯治れ後入湯の日ね程
たの湯をほふたのほど
灸すべのうすくは灸
あやほりたり。灸治すさ
病わく湯治れ中も。灸
すべ。湯いよく相應す。湯
の及ふ湯あり。又灸す
中宿るも。灸すべのうすく
灸すべのうすく

湯お熱すまは灸す
たは灸すべのうすく

とる人あり。酒食さ

すべのうすく。灸すべのうすく

冷飯乃れ。いじべ

け地え来水海を灸すべのうすく

みそ。たれ氣候不正上湯

治す。汗をりし。毛れ完ひ

け。風寒に感し。易く灸す

水腫傷定れ。灸すべのうすく

用べ。勿論。灸すべのうすく

水氣。灸すべのうすく

灸すべのうすく。灸すべのうすく

灸すべのうすく。灸すべのうすく

べかじぎ

熱^{あつ}くて湯^ゆ治^なする人^{ひと}別^{べつ}して身^み
持^もちぬ^ぬぐ大^{だい}事^じなりいふふこ
ちぬ^ぬだ湯^ゆまで五^ご体^{たい}の血^ち脈^ま
を^を押^おさ^させぬ^ぬち筋^{しん}骨^{こつ}ゆ^ゆ
み^み表^{ひょう}氣^きと滑^{なめ}くぬ^ぬぬぬ^ぬぬ^ぬ
小^{せう}便^{べん}赤^{あか}く感^{かん}の脈^まを^をぬ^ぬ
振^{ふる}り^り或^{ある}酒^{しゆ}の多^たい^いは^は
音^{おん}曲^{きよく}を^をぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬ風^{ふう}邪^{じゃ}
へ^へやす^{やす}れ^れぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬ
ぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬ
ぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬ

醉^{すい}ぐ^ぐひ^ひ或^{ある}下^げ詰^じひ^ひや
終^{しゆう}美^びたる者^{もの}より^{より}多^たき^き
て^て喧^{けん}嘩^かの^のある^{ある}大^{だい}不^ふ意^い
生^{せい}なり^{なり}その^{その}人^{ひと}何^{なに}も^もな^な人^{ひと}
目^めを^をさ^さの^のぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬ
の^のい^いん^んあり^{あり}旦^{たん}夜^や分^{ぶん}つ^つま^ま
れ^れ湯^ゆも^も男^{おとこ}女^め入^いせ^せなり^{なり}
分^{ぶん}否^{いな}の^のま^ま足^{あし}を^をぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬ
あり^{あり}ぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬ
れ^れ至^し言^{げん}語^ごは^はぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬ
を^を得^{とく}ち^ちる^る人^{ひと}の^の其^{その}病^{びやう}功^{こう}を^をぬ^ぬ
ぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬぬ^ぬ

吐て死す。大に熱しむれば
うつて。急をゆるぐ。熱
熱体は保者ふはら
て。又いつて。上四なり

○論

ある人向て。中れ湯を
毒湯之。入来やうわらり。
熱る中れ湯入。急を
ゆるぐ。中
毒湯と。入が。砒霜石
斑猫也。の毒入。あら

ま温泉ハ其性温めて。能
温り。氣血巡。上と
す。あ。ゆ。其性冷。下
ち。上より。包。金。下
中れ湯。是。中乃
湯。腫物切。毒。入。あ
て。甚重。あ。上。も。そ
ハ早。急。科。の。細。も。あ
か。上より。ほ。み。用。一。病
と。成。或。命。を。危。く。せ。ん
ハ。あ。ご。た。い。急。病。の。人
と。入。と。氣。血。を。巡。す。こと。

よのべにまじり湯入るるをね
ほどいりや病人とや。いり
くくね。まじり。いり。ねる。湯の
病。か。う。う。ね。ば。や。う。ね。ど。
あ。れ。人。病。人。の。み。よ。れ。と。い。と
ず。先。眼。薬。の。功。能。を。せ。ん。る
を。の。と。ぬ。り。中。に。湯。の。害
を。ま。ふ。人。ま。ま。き。ゆ。ま。ん。こ
よ。り。て。中。の。湯。を。悪。て。毒
湯。と。は。名。に。け。る。人。此
湯。を。れ。を。ね。て。入。る。な。り
ち。り。ん。が。あ。り。り。此。道。理

ゆ。中。の。湯。入。り。も。害。を。ね
人。も。て。方。の。り。て。不。審。み。あ。り
ず。あ。る。お。み。ゆ。ま。ん。を。病。て
終。り。既。瘥。と。成。て。固。て。人。愈。へ
ざ。り。人。あ。り。人。の。と。ま。ふ。よ。り
て。此。あ。り。あ。り。い。何。の。の。湯
へ。入。て。よ。り。あ。り。あ。り。と。い。ま
る。の。り。れ。ば。あ。る。指。圖。し。て。
中。の。湯。入。り。い。い。病。人。中。の
湯。入。り。て。二。日。ち。は。よ。り。氣。ふ
ま。り。て。合。と。あ。り。二。日。ち。か。
氣。を。ち。や。り。り。湯。も

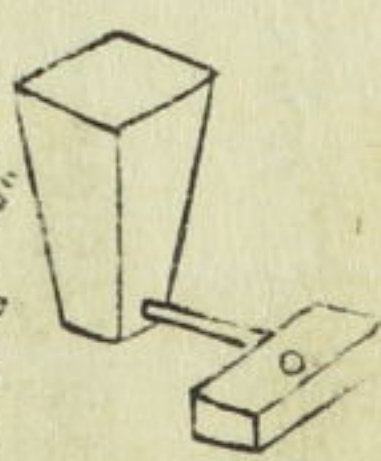
つづ。合ともくろず。おめて
 のとあつと。相宿の病倍あひやう。
 根子をちやみ。親切ちんせつとありて。
 向とけり侍。ちうくのよう。
 なるりる。成はて。倍大ばいだいお
 ころれ。是湯このゆはぬがひぬべし。
 あらゆふこそ入るいれりて。
 自らみづか誂たづねはは。重おもくさるひ
 て。あゆふ入るいれるさるさるさるさる。
 たらまら。氣き急いそああらら。
 合あひひみみ出い。着きれれるる心こ地ち
 付つ。既い瘵ざいううとと出い。既いよりより臆おそお

子事こじ既いのの。其その救きういいの
 間ま。既い瘵ざい甲かのの。すすののあり
 とぬけく。落おちりりりはははは珠たま
 一ひととと。今いまううららんんかりりててえ
 たりき。去さ後ごはは陰いんとと使し氣きと
 好このと。後ごはは瘵ざい毒どくのの根ねををぬい
 ぬり。け人ひと己おの己おの。席せきれれ尾びととふ
 ころり。と。彼かの倍ばいれれ氣きははと
 をりて。ゆゆぎぎのの命いのち。ととななが
 つぬい。倍ばいのの恩おんこそこそ淺あはれれ
 祥さむと。厚あつくく謝あやまりりてて。おおままなる
 とちりり

又ある云ふ。二女の小児に瘡
 甚く成て。目もつぶる。背も
 ぼろぼろの母のむくろ。母
 子難養するあり。其湯の
 人愛ふ湯治りけるは。い
 世事をえり。またし。解れ
 ば。さるる指國に付。中れ。湯を
 湯を竹筒に入る。く。持取
 て。破紙瘡みひく。付れ
 り。二三日中。瘡建愈る。
 子も母も怪じ限は。此
 不儀は小兒病か。ころ。金身

紫皮又成て死す。まじ
 さ。ぬく。煮し。けれ。瘡
 中。の。湯。に。害。め。白。く
 毒湯と。い。ふ。ぞ。う。ん。や

謝温志之圖



右を奉。能ふ。不。い。く。瘡。瘡。を
 人。取。門。又。あ。て。湯。不。お。せ。る。具
 たり。を。あ。ふ。人。の。瘡。瘡。を。て
 借。用。色。を。一

辨
 一
 一

一日よ。二夜つ。出をいね。
油の客の子あつて調茶
の宿より出にえ。二極野
れ時ハ自分ニ酒を宿野
ト
彦番代一息り。こゝの外。
又そゝ外たれ出。代
都合一息り四々外。湯口
のれので。勿論自分世
夢に。する時ハ。彦番代。
三々なるりちうり

幕湯 大幕湯切幕
代音あり後

入也。そは。人行。て。れ
り。中。う。ま。ひ。ま。だ。公。さ。の
が。お。文。身。は。痛。不。あ。る。人
お。ど。甚。難。を。あ。ら。う。必。ど。
幕湯にすべ。幕湯よ
す。終。ハ。湯。女。人。と。あ。ら。う。
へ。て。其。上。と。あ。せ。だ。こ。へ。し
り。ず。よ。め。て。内。せ。ま。ず。入。ら。ん
よう。幕湯一日よ。二夜つ。
湯女よびよまる。幕代
一音あり。息り六々。人ね
れ。多。少。こ。う。だ。幕湯入

ひくハ。湯女。まゝいあん
葉湯助。湯女。三四人。何
も。と。あ。り。と。ん。
ん。持。以。身。役。を。と。や。り。に。は。
宿。の。亭。主。女。房。の。使。の。下。女
下。男。等。の。名。の。名。と。あ。り。
と。ん。ん。持。以。身。役。を。と。や。
り。銀。掛。合。が。く。は。り。
て。配。分。と。宿。代。れ。む。り。又
ハ。通。用。の。銀。札。を。調。え。
お。無。心。包。か。あ。り。し。
灯。の。錢

一人前をとり二錢だけ。

湯女はふとる

掃除錢

自分。と。言。う。れ。た。あ。一。と。り。
を。間。か。十。分。た。と。出。け。お。
か。一。人。あ。一。と。り。と。よ。つ。あ。
あ。人。あ。ま。あ。る。

やうい人

毎日早朝が。あ。り。と。ん。
き。言。に。返。る。は。買。一。と。り
と。あ。み。ト。か。相。懸。ま。ん。つ。け
あ。る。べ。し。や。い。て。い。ま。は。

食類

酒^{さけ}近年^{こじん}の上^{うへ}酒^{さけ}あり吟^{ぎん}味^み

おぐー

茶^{ちや}た^たど^どと^とよろ^{よろ}く^くの^の旨^旨す^す持^持

糸^{いと}と^とべ^べー

豆腐^{とうふ}は^はて^てん^んが^がく^く豆^豆煎^煎賣^賣

に^にあ^ある^るこ^こ合^合す^すら^らの^の旨^旨れ^れ

海^{うみ}川の^の魚^{いそ}た^たと^とん^ん之^之但^た味^{あじ}な

さ^さ伊^い勢^{せい}れ^れど^ど志^しじ^じ干^ひ鰯^{いわし}の

名^なお^おり^りそ^そよ^よご^ごそ^そ貴^き殿^{でん}之^之

川^{かわ}の^の旨^旨す^すと^とあ^あら^らの^の旨^旨す^す持^持

味^{あじ}の^の旨^旨す^す

香^かお^お甚^{しん}と^とく^くの^の旨^旨す^す

み^みし^しの^の旨^旨す^す

お^おい^いけ^け梅^{うめ}が^がし^し昆^{こん}布^ぶ

お^おい^いす^すお^おれ^れ新^{しん}持^ち糸^{いと}其^{その}

お^お油^{あぶら}の^の旨^旨す^すと^とあ^あら^らの^の旨^旨す^す

た^たや^やり^りお^おも^もの^の旨^旨す^すと^とあ^あら^らの^の旨^旨す^す

し^しき^きも^も旨^旨す^す

ち^ちぬ^ぬぐ^ぐら^らの^の旨^旨す^すと^とあ^あら^らの^の旨^旨す^す

ど^どと^とよ^よの^の旨^旨す^すと^とあ^あら^らの^の旨^旨す^す

ち^ちぬ^ぬぐ^ぐら^らの^の旨^旨す^すと^とあ^あら^らの^の旨^旨す^す

湯^ゆ懸^{けん}思^しゆ^ゆ人^{にん}年^{ねん}の^の自^じ由^{ゆう}

お^お勢^{せい}ち^ちの^の旨^旨す^すと^とあ^あら^らの^の旨^旨す^す

酒べーとくへん

かー物 本ニ味縁

蚊帳 一斗

よだ 一斗

ぬえん 一斗

右大ぶをいふ緒りる連之

みやげ

柳やなぎがら柳細工海苔 湯たれ

楊枝 ぼくご宮津緒

むぎ張費さら煙者細工

○湯清名不拉行不 船提

城崎八景 葵二

温泉 晚鐘

お流てぬ心泉とむきまの
きふられぬと入あひのこ

松崎 晴嵐

松がさねくくふ嵐のたぎりて
小ふんがうふ波のうねく

桃畠 夜雨

桃畠の花やちりあひをわび
こよひのこせままこめのを

戸崎 秋月

とちあふぎふ名木の月あはる
おのまふくつる秋の夜

畑上 香雪

ふり鏡の雪はいさかき
くれは日さくこみつ

緒巻 扇石

きぬ巻にちる夜のせとさへ
月にもあつた天俵のりご
瓦比文照

けいの漢とては後日あるの
花も志がいのうららとさる
津山陽帆

三帆行帆風ぬやせて程なく
海つけの海のほりふ
未代山温泉寺

本宮十一面観音はさけ
六尺余勢文仏作と他
道智上人の用基湯標

熱別商坊之毎年三月
廿日開山忌修行あり
せんぬ湯へる智上人

加持下なりを武帝の
殿受又遠一未代山温
泉寺とみこのう有と

宝塔 本寺
茶師堂 温泉寺
の麓

鴻の湯 茶師の東山極
る鳴自い湯よて

極楽寺 曼荼羅池
の西 経宗

獨鈷水 極楽寺の湧る一丁
る智湯を新玉とて標記と

四所明神 中の所のよりまこ
有是出る明神乃

二十五

着袂とて和洞元年
勅請一陽崎の法守之

布住寺 日蓮宗

蓮成寺 真宗

愛宕山 けいん良とておらう
終系之以上は程現

事有

辨天山 活之文塚の後
の山と下り

活之文塚 活之文塚の山
とて又氣比村の西白

山の下にも塚有誠中活之文塚
壽永の亂といふにあり官代判

友といふ者の狂言に於て
一人は女子は坊さういひて縁金

空、迹を以て不有く氣比とて今會と
終ら其妻又氣比と塚と縁金

其後湯崎へ徳人住来此地を
結縁のよち又い松崎と云ると云

供ある人の命と武士の命と
りたるといふ今も小松に下り住り

日とり山 活之文塚
山の小山

柳一は 日とり山の山に在
松一寺の社あり

烏帽子岩 日蓮宗

八雲岩 けいん良とておらう
小と傍きと西と

川とて

くさかけ山 日とり山の山に在
向社とていふ

結巻岩 けいん良とておらう
山の白之坂あり

かよとていふ一は里人といふと
これ縁とていふ結巻の山

○結の巻とてはとて
ふれたるふかたのいふと

結巻大の社 右日蓮宗
社の一なり

田井村

今津村 けいひ けいりひる比
の神社あり

小一岐 お けい村給巻の糸
か工續く糸地之

津居山 つ 小海の口より給巻
乃小あかりを

津山

津居山 せと 津居山の龜長程
ちと云々あり給巻をひ

建家 けん 建家より材木をくわきと
又同より

猿が城 さる 猿が城は給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

ふくよ ふ ふくよは給巻
の口より

又おろし ま 又おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

おろし お おろしは給巻
の口より

○但列城跡那湯跡

通一竹雲存物人足貨

英大坂人足富

難波橋筋後所丹波屋左之

橋本所流右橋本入ぬのや流左

所ハ右所東境西入るるまは流

京教人足富

六角を鳥丸西へ平漢也壘

鳥丸を松原下 傳る也壘

小川流松原下 山本也勅七

傳具也所松原下 竹田也壘

三乗色小橋 丹波や壘七

新町色壘上 出石や小壘

室町通松原上 かつらや新壘

つぎまろふ坂多く難和るれ

ハ不達者ちるふ通一かご

物々べし。三月か八月までハ。

湯跡、四日と云。九月か二月

とハ曲豆岡 中橋か壘上。四日

と云。岩舟少くハ。足富後

してより。掛同一費目付。賃

式多し。京大坂よりハ。湯跡

よりハ。日一六七日づり。又休

によう十日銘から事まぬ。
はまばあ底又支度一發
呉あ。くま。くま。くま。くま。
湯治。宿のあて名れ付れ。
派状ホてか。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
急入用れ。ふ。ふ。ふ。ふ。
あ。い。る。持。来。お。掛。
同五六費同もあ。ふ。人。足
之。催。て。よ。う。石。中。小。揚。あ。は。れ。
時。節。よ。う。り。不。自。由。之。案。内
か。て。う。や。と。あ。ま。し。う。湯。治。か
も。同。事。あ。り。り

右に用ある人のあて記と人
足宿。案内すは。人。来
て。村。後。の。上。の。文。合。け。て
形。を。出。し。性。成。人。は。若。紙
宜。あ。世。話。し。た

○ 賃銀定

大坂かたしき
るやを岡きで

一通一かご

四日一丁 四拾五

一 佐藤物人足

八費目拾四日足少々

豊岡納屋
大坂きで

一通一かど

四日辰一丁 四指四五

一佐藤お人足

四日辰八丁目持 廿二文

京か出る豊岡、

一通一かど

四日辰一丁 三指八文

一佐藤お人足

八丁目持四日辰 十九文

豊岡か京と

一通一かど

四日辰一丁 四指四五

一佐藤お人足

八丁目持四日辰 廿二文

出るか京と

一通一かど

四日辰一丁 四指四五

一佐藤お人足

八丁目持四日辰 廿二文

右のりまて飯代雑用はんたいざつようのり

ちろちろ。あま五川あまごがわとあるとて。

日とひ。付つかど一丁あ。一日四五

ま。持もちしとら。丹後とらとて

日とひ。付つかど一丁あ。一日四五

より合ふてます。人皇も
も。上下とも日のびの時
銀如也。河内掛目八
より少ハ。其づん。まを
定後。のより合てま
余も早。おんぞぐー
よあうご。とあひた
後。の。割。を。海。と。さ
の。か。ら。花。ら。ひ。さ。く。藤。わ。ら。て。不
自。中。の。ご。う。だ。ん。ご。う。の。め
あ。は。れ。決。め。ご。ま。ん。ご。う。け
ゆ。て。か。ら。ご。う。め。う。ー

○京より湯治、車乃中記

京大文丹波口より
西、ひちり

朱雀村 宿あり 丹波口
六丁

七条五丁。おんごう。の。七

条とひちり。○橙現を

○松屋御旅。○六条新宮

お義石塔

川勝寺村 宿あり 朱雀
九丁

○はろと川○わろ町

桂川 宿あり 川勝寺
八丁

ろよ。後。あり。三。太。上。松。尾。社

又。ゆ。の。向。け。を。か。つ。り。し。り。

い水上の狭小丹波巻於
出清流川、落大舟、梅津と
なせの、と、と、と、と、と、と、
りりり

●西芳寺 山 ○山田村 山

上下二村有 見 ○文徳帝車塚

河津村 河津 ○河津村

○二町縄子

櫻本原 桂川より
まゝよ

町をくまらへ七八丁、
が涼とらへ小坂あり

○塚原村 ○大原野

○春日社 ●猪持 西移の
四移の

留掛村 富るし
二十丁

○酒呑童子腰け石 た

▲京が移入の右の色とば

伏之が来入の京ふ六車下

鳥羽向の林出留掛連

及あり 三 又大坂の上

人候あつて水登りあり

出るがよう、但向の林が

留掛まて小松原細石

くして縁あり、板屋あり

又ゆるか、ゆる人、ゆるり

おし、いさべー。後、いふ
定、紙、が、ち、り

○但、ち、を、一、か、ご、み、存、人、足
伏、え、た、の、る、お、封、し、て、す。

合、二、人、百、文、さ、う、そ、ま、り、の

お、い、の、坂 者、く、け、か
三十丁

け、坂、と、城、丹、波、の、さ、か、い、り、り。

大、江、と、い、う、大、江、れ、坂、と、あ、や

ま、り、て、お、い、の、坂、と、い、う、さ、ま

乃、あ、い、く、○、作、ま、り、安、乃

地、蔵、事、あり、懐、妊、れ、女、さ

の、柱、を、削、て、除、産、の、附、に、

ふ、く、じ、必、あ、産、と、い、ふ、と、ど、○

作、を、あ、か、し、ら、う、二、王、塚、足、と

酒、呑、ま、り、が、首、塚、と、い、う

○、日、子、村 舟、附、の、地、蔵、事、た
の、森、王、子、社、ん

○、八、條、村 八、條、の、社、有、多、氏、執
事、江、時、取、出、と、い、う、れ

一、社、が、り、軍、長、矢、を、納、り、と、い、
矢、塚、と、い、ふ、の、り、社、の、た、ち、り

廣、乃 お、い、の、坂、より
二十丁

○、ろ、ほ、り、村、○、か、せ、系、村

龜、山 ひ、ろ、乃、が、無、と、け、い、は、土
心、し、と、さ、る、河、原、土、格、か

う、り、の、と、元、み
丁、あり

松、平、紀、伊、守、殿 五、万、石、法
城、下、あり

▲ 右、七、の、べ、但、る、森、山、の、川、系、町
左、山、貝、原、と、い、ふ、立、石、め、け

▲ 龜山が登山して三田越山
退之出港を夜と裁限る事
乃あり後登山する事二日
元は退合とされ三田越山

● 出雲大社 西の小東

菅生寺 明元一歳に札西
所とあるに三十丁上

○ 今津原村 龜山の
出雲

○ 釜河村 ○ 大井村 奔奔林
の社あり

小林村 三丁上

○ 小川村

高卒都婆村 小林より
十三丁

久原村よりなる一。

乃なるるさる身のと

とば有最のち原の卒

○ 川冥村 村とさうて
遊石とと大

石あり ○ 新川冥村

八本村 ちそとが
八入丁

○ 廣瀬村 ○ 八本橋村

○ 新田村 設より川とが
新あな

鳥羽村 八本より
一リ

此をさ。栗江と出但て

うらぶらといふ。初相と

橋より出るとせ ○ 石川原

村 ○ 小山新田

園部 ちとね
をり

小出伊勢守殿 二万八千
ふ石

城下 町長し。出たるは川あり。川
のよきとけり。川あり。川あり。
右の側 ○本橋村 羽之森あり
るなり。

○補陀落首親音をへ
出親音とりし。白紙の。立げ之。
引之。羽之森あり。本橋村。城下
の。川あり。

三ノ子孫 一リ
山底をまが園とせし。山あり。

○新三ノ子村 ○古三ノ子村
三ノ子孫あり

須知村 三ノ子孫あり

○新三ノ子村 ○古三ノ子村
三ノ子孫あり

○新三ノ子村 ○古三ノ子村
三ノ子孫あり

○新三ノ子村 ○古三ノ子村
三ノ子孫あり

○新三ノ子村 ○古三ノ子村
三ノ子孫あり

新田村 富あり 女入り

紅新田村 富あり 女入り

中倉村 富あり 女入り

捨山村 新田あり 二十丁

△山をせせりし。後智とせし。

後智の。大原に法あり。けし。山あり。

後智の。大原に法あり。けし。山あり。

後智の。大原に法あり。けし。山あり。

後智の。大原に法あり。けし。山あり。

後智の。大原に法あり。けし。山あり。

後智の。大原に法あり。けし。山あり。

後智の。大原に法あり。けし。山あり。

級下川宮にてう。但たふ新也。
又丹後国にむいふ大船がう

○大井村 ○井尻村
出石村 桂山より
十二丁

世に名をた丹波の甲の

○大井村 ○板井村

水原村 村の字は 出石村の
川橋あり きてり

と大久保村

下大久保村 川ありて ころろ
橋あり きてり

次は谷川あり。後て丁絶た入る。此の
後、山にむいふ。此の山にむいふ。此の山にむいふ。
又、山にむいふ。此の山にむいふ。此の山にむいふ。
又、山にむいふ。此の山にむいふ。此の山にむいふ。
又、山にむいふ。此の山にむいふ。此の山にむいふ。

免原村 中村と云 大久保
いふ村と 一り

上中下三村 ○中村 川下 老屋中老
系と云る 有

○やま川 下 老屋中老 有格あり
る 此の山にむいふ 此の山にむいふ

細石 一と小池形 一り

出石に谷川有。是よりより。板
多くとてふ。此の山にむいふ。此の山にむいふ。

ふま村 かせと云 十六丁

出石に板橋と云。氏神あり。此の山にむいふ。此の山にむいふ。

是か生野と云。此の山にむいふ。此の山にむいふ。

○足利村 小池と云

生野村 ふまと云 きてり

大沼と云。此の山にむいふ。此の山にむいふ。

○秋の森天神社 此の山にむいふ。此の山にむいふ。

○くまの 雲田

村の下 〇生野川 〇下生野

大川 〇みま村 〇池田村

志保村 二十丁

〇いんげん 市村

〇あつち 後智心 〇あつち 市村

長回村

〇あつち 荒野 二里四方の廣野あり

〇あつち 後智心 〇あつち 市村

出師村

〇あつち 生野川 〇あつち 市村

〇あつち 後智心 〇あつち 市村

〇あつち 生野川 〇あつち 市村

〇あつち 後智心 〇あつち 市村

〇あつち 生野川 〇あつち 市村

〇あつち 後智心 〇あつち 市村

〇あつち 生野川 〇あつち 市村

〇あつち 後智心 〇あつち 市村

〇あつち 生野川 〇あつち 市村

〇あつち 後智心 〇あつち 市村

〇あつち 生野川 〇あつち 市村

〇あつち 後智心 〇あつち 市村

〇あつち 生野川 〇あつち 市村

〇あつち 後智心 〇あつち 市村

〇あつち 生野川 〇あつち 市村

〇あつち 後智心 〇あつち 市村

丹後白く人のけふのつとよ

○久和市村(荒河川) 丹後

荒河村 丹後 二十丁

石乃追 丹後 出石乃

人の丹後白く乃の中階に

てる 丹後 一

立系村 丹後 一

野 丹後 紙

野 丹後 紙

野 丹後 紙

野 丹後 紙

野 丹後 紙

野 丹後 紙

いのを川

一の宮

右の一の宮社

本宮

本村

右の

大

源

右

右

右

右

右

くらり能くしつふ。そまをさ
 けりき作之。別してあり
 世丁けり。殊ハ丹波但馬のさ
 久之志小大のの置る。丁や
 とりて。美狭の二つある。又入
 丁有り。兼は松とあり。松と
 別てある。松とあり。松とあり
 とは。松とあり。松とあり。

久畑 桑田 おの原の作
うらり六十丁
 所くがま 川あり格有
 又六丁終て川あり 水格有
 ○粟尾村
 平田村 くわが
一り
 小谷 あはし
一り
 出石 名村より丹波の宮
海乃有格有

▲尾谷 かや又丁とて小格有。
 格作 とが終て八丁
 程を なるは二ありて。海は
 足 をりて。論五
 ど みは。力作と
 小坂 ありて。海は
 ○矢根村 あしのかかり
はけの城あり
 矢根村 二村
あみか
 寺根村 一り
あみか
 ○終 ふ終 十七八丁ありて
難あり。格有
 出石 ち坂より
廿丁

仙石越前守及み万八云

○宗鏡寺 沢庵和尚 住持あり

宮 宮田村ありある明神 といふ但る又社の二あり

△出石は海にぞたれど

川端は細石を以てを岡に里西

流すも。隆及之。又出石云

その名。松にのりまう

出石 舟問や 安布

舟屋またあり 岩田や

まじやまが糸竹跡や劫高

い問屋が三丁にて四丁

か船のり海流を紅雲海

一 舟屋を人をもよわす 舟屋より切抜取らる

徳村 まをん 宿屋 一り

又条村 日乃 徳村 一り

○見ゆき 一休の命に伝ふま 了るすやん 見ゆき きの旅 きの見ゆ

豊岡 又条 一り

入石川有 系後田出守 一万ふ

御塚下之柳町を細工入屋

●小田井大の神 住すみ社 の一あり

枕の歌を。除き。玉い社地の 砂を。身を。するに。地。地。地。地。

●大雲山奥國寺 後宗黄 築流あり

百撰わさ 一あり

●末運寺 寺あり 一の

知恩院流

京大坂智光院前物
法合所

湯崎真屋

八師去湯

系より湯崎を九二十
八里才十四丁余なり

三回城

大坂小路左融寺を水へ出

るるま○三番村

十三村 くらの橋が

村を出て川有之は○堰村

○今里村○三津也村○

加清村 いろうけ社有。此社家。橙之

神傍 久ざん 十一ヶ

前二門あり之は

▲壱三級伊丹を経て小湊へ出ル

本海なるは。及遠。此を神傍

小湊出の並に小川。た。終。バ。

乃之記を。其を乃と記

○冬知村あきちむら右にあり ○下坂新村

○上坂新村

塚つちがら 宿あり 一里

○南野村 太二伊丹とあり

○比陽村 宿あり 塚あり 一里

村と出て大池有名池之比目

ありと云ひ奉るあつと云ひ奉る ○中野村なかのむら

宿あり ○姥いばが茶や ○あそ

村 少れたりすくなれたり 中ふちあり

小湫村 一里

此れを伊丹巡りの乃と

新あま町長一 ○茶谷村

此村を今下こむか 伊丹村の宿 ○川面村 一

編野村あまのむら あり 伊丹の教音者あまのしやうおん 宿あり

生湫村 小なる宿 一里

入の生湫門 後之を水あまのむら 不日あり

▲右生湫川下流 小川あり

宿あり 伊丹の宿あり

有。本村の宿あり 伊丹の宿あり

ある水にて生湫川より

きり母接 是より

○おと川おとがわ 次又川系あり

たはばあり 川系あり 十丁あり

坂といふ所有
是の所を二リ ○ 大のり村

名塩 なませ 一リ

け村とて名子紙を漉し葉

と名塩紙具たり

久保村 なほか 二十丁

○ 獨沽水 ひとりかき 気が目下

と四十丁は月々ぐら坂を

坂とふ坂多く体たかく

たりろー ○ 平田村 ○

平田川 なみ 橋長 ○ 日下 ひげ 村

名場川原 なまがわ 八丁

名酒 なめ 出のり者 で

▲ 五丁にて四行茶やと云有

か。播磨と云。其れ社なり。其

之石が右行の。之田なり

○ 山姥 やまば 月足の橋今いふ云

○ 十四丁にて小山 こやま 之田 の 男

の抗有 かた いふ。之田 の 町 の 谷

飲者 の 山 の なる。有る の 富士

播列清水 はり なる。と云 の けり。系

色 の よ

三田 なまがわ 原 の 二十丁

九鬼長門守殿 くき 之 の 城下

○ 三輪 さんりん 町の の 社 の 有。例 の 年 の 寺 の 乃

▲言水れ時をくくげ條也

まぶらぬるなもあげれ川の難

所をのびてはむ見原い出ル

○ぬ井村 ○ぬ野川 ぬの川

き流之中あまの ○大い 大い 進入点

ありまじかり 一リまゆる大い云中村
下村野田とてまきまきり

▲大いれ中やぶを東出でさふた

有。あはるふ海けた出たり。京へ

あへてあはるふ海けた出たり。京へ

後智ふたふ二りをりけり。後

○宮村 いんみやま の横有なるよりこ

進入村 いんみやま 二りよ

古市かここととれれたか合相備

▲丹後名不座れ人の合が

坂をのりては林をたひり

○園外一里 いんがい 有 ○小た

園外 ○いら流 いらなが 一り

うそれ行田 いらなが 一り ○後

智ふ いんみやま 二り 日之合丹後

名無ハ丹後身乃中附あり

○滝が坂進入村 たき ぐまこ

電系 のち 電十好難不之味全た

合ふと云思ふありぬ智田

守の城 まもり 絶頂 たつみ なる様 いんみやま あり

下丁卅丁。この新所

大倉 おくら 一 いち

村の入口新所社とよむ

貝原 かいげん 一 いち

織田の城守殿の城下の町

○横社 よこがた ○多田村 ただのむら ○おひ村

石負村 いしひ 一 いち

合お多など入多く仕出

△壱行 いちぎょう 後智ふ及之村の中

経ふ小堤あり。地をわけてた

は。ゆる及之。此及之。横田村

は。出とぬれ及之。右の

たより。中へゆる及之

水上村 みづのへ 一 いち

○檜 ひの 散村 ○柳町

河町 かほ 一 いち

出の川有 いづのがわあり 舟 ふね

△川を がわを 経 を 後智ふ素出

○西足田村

佐次 さつぎ 一 いち

出の川有 いづのがわあり 舟 ふね

○板谷村 ○中法村 ○山

板谷村とよむ。左に畑中。板谷本

村の下。右に畑。有直品浄松

大石土とあり。右に畑。有直品浄松

いふの地を。是は氏あり

○ 滋中川 橋多 ○ 岩中村

○ 雲田村 雲田 江原ニ
村ニミキテ所トシ

江原 江のふみか
一リ本

○ 日並村 ○ 伊後村

○ 土居村 土居村

小川 江原
一リ

○ 相生村 相生村

い里と深かり。山上を居里
と云ふなり

納屋 てんより
二十二丁

い不同屋あり。大坂より

のそめをとり。自由あり。

湯橋、四里の乃。うらり

てより。むらり

同屋 むらり

赤坂 赤坂 松本

松本 松本

松本 松本

紅賃 あり切
七人のり 百六拾四文

根屋 根屋 八人のり

はし はし 八人のり

又 又 十文

一のり合一人 廿十文

一換箱一箱 二人前

一のり地一丁 二人前

一つら一高 二人前
一宮より二丁 一人前
右くみ旅人の名あり
ちねづみいづつとす

○佐野 ○九日

豊岡 こよとろ なやとろ
一リ

町中一 出町と云ふれ橋
法に茶や者出る毎る舟
をの。休あて。日下り。湯治
をぬ。京ふれた申記も出た。
湯治を。是合こり ○大坂を
湯治を。及法から九十九丁余

檜磨り

大坂梅田かたの ○大仁村

○孫里村 入は又川 ○佃村

取は ○厄己の渡 厄は橋入
三又 はらふ
六つ切に
外文あり

尾崎 大坂より
よりこり

松更遠江守殿 四万

湯治下之但大坂ごこがのり

合が子有 一人ま ●大和の

浦 後辺 ○大和の橋 町中

堀江の里 町なか ●素れ

文の屋筋はい道有は。日

石塔。高瀬の溪に有。○下

川 ●早山あさやま ●難波なんばの里

八丁やちやうあり ●猪名川 ●琴

浦うらの沖 ●東新田村に有 ●

武庫川 ●

田新東倉 ●枝川えだがわ ●

●淡路村 ●

西宮 ●

西宮太神宮 ●

廣田社 ●

宿河原 ●

宿川 ●

阿保 ●

親王おんみの所ところ ●

お出いでの宿 ●

山 ●

○茅かやの村 ●

川と三束 ●

○猿丸さるまる右捕とら ●

左浦ひだりうら ●

○おや川 ●

○辻村 ●

○又百勝 ●

吉川 ●

兔原住吉 ●

ニリ

住吉社 社名、これに有る。至極の中、よこのねあり

○石川 河原町 ○とどろ川 ○坊持

とどろ川の ○河原町 ○東村 ○三河村

○寺内村 ○求塚 村の味派

目村 村の味派 ○摩耶山切利天

上寺 寺、坂十八丁、赤板に城下の

布川の池 男塾

船津 名を二、うり、うり

○生田川 布川より、川名を

○生田の森 龍川、梅、権原

城 権原二、

神戶村 濠川

宝膳寺 木正

桶成の

有馬道 河原町、水

○漆川 の大河、

小宰相

兵庫 昭の、

尾崎 昭の、

○鏡の池 昭の、

○鏡の池 昭の、

○鏡の池 昭の、

○鏡の池 昭の、

○鏡の池 昭の、

○鏡の池 昭の、

○鏡の池 昭の、

長座の所。東海にあり。有。海
土宗。本道寺といふ。法堂の
草創。法堂と云ふ。●
丸号の像あり

● 眞光寺 右の
つぎの
出にあり

● 理智塚 右の
つぎの
出にあり

▲ 法堂塚 右の
つぎの
出にあり

● 宿村といふ。在。有。夫か
悉くして。約。林野田村。終。
天土川を。東。酒。上。出。事。こ。ハ

海。乃。谷。十。丁。部。道。下。光。源
氏。の。二。系。れ。松。木。塚。塚。源。の

● 和回神社 右の
つぎの
出にあり

● 後醍醐寺 右の
つぎの
出にあり

● 志保寺 右の
つぎの
出にあり

● 本村源 右の
つぎの
出にあり

● 吾重章の塚 右の
つぎの
出にあり

● 長田村 右の
つぎの
出にあり

● 長田村 右の
つぎの
出にあり

琵琶が池 ○おんがが池

○釣控の池 つりまきり 村あり

○仲哀天皇陵 ちゆうあいてんわうりやう けしん

て。一ス身れ臺 いっすみんれたい 霧子溪 きりこ 風原 かぜの あり

○鳥添 ○山田村

大倉谷 おほくらや 一り

○綱敷天神 つなぢてんじん 大倉谷 おほくらや あり

○人丸社 ひとまる 辺にほくへ下 へた の附法身 のつぽうじん とす

牙飲 かのみ 十石 じゅういし 人丸本像 ひとまるほんざう 長七 ちやうしち 社の前 の社まへ 松平日向 まつらへひなた へて建立 へてたて の

石碑 いし あり 結 むす 林道 はやしちう 青 あお かり

○忠度塚 ちゆうたづか 人丸 ひとまる の石 いし あり

○明石 あかし

松平丹後守殿 まつらへにんごしゅじん 石 いし 城下 じやうげ 之

○大沼川 ○大沼新町 おほぬま 北 きた 辻 つじ あり

大 おほ 沼 ぬま あり ○大 おほ 沼 ぬま あり

天 あま 皇 みかど あり ○解 と 雲 うみ が板 いた

村 ○小久保村 ○森田村

大久保村 おほくぼ 一 いち 里 り あり

○野中 のちゆう 池 いけ あり

○神出 かみで 山 やま 右 みぎ 北 きた 浅 あさ 水 みづ あり

○三軒家 さんけんか あり

金湯村 かんと村

長池村 ちやうち池村 一 いち 里 り あり

△是 こゝ 古 ふる 海 うみ 邊 べ 出 で て 石 いし あり

出る乃有 別府村ニ射ヶ松
と云ふ名に於て

ぬ名 ○清水村 是より
本有

○早南堂 早南
之 ○清水

新田 後里村
ともいふ ○太山村

○早畑村 早畑
ともいふ

西谷村 長いけ
一りす

○新在家村 ○砂口村

教信寺と云ふ有。教信上人
の法号に依りて砂中村に御堂

○坂本村 おりの信水有
又おりの家あり

▲け村かたはて刀回尾上

早砂石室殿名振出乃有

街乃三里すといふ名前より

此よりかたは門車路にあり

が宿で給食を食ふ名不也と記

○刀田山鶴林寺 かた郡
小山村

寺あり百十七石餘。天台宗。重
徳寺子の建立。ふ二百年。及と

そつらの鐘あり。 ○尾上社

長田村よりあり。尾上松有。日よ
有。池田村より出といふ。あまのつり

ふみ。ろくろいといふ也。

回の中よりあり

○蒸井川 是か別府川
ともいふ

○早砂 砂ひら。早砂
地。名有。砂に村

一り。是か別府川に二り余い
辺に浦を有る。本領。徳といふ。西

砂のうた。とらまると。浦風いた
まう。早砂。早砂。早砂。

○早砂の社 社於十石九
月十石。早砂

相生の松有。惟古の松の天心の松。毛利氏に伝ふ。出集れり。に。じ。なり。今の松の本多。法列云。極さ包むる有り

●地蔵山十輪寺 永親末寺。ち。然。み。え。は。松。上。人。水。を。見。の。出。新。の。治。ア。古。ま。と。り。人。は。く。り。た。れ。之。●芒井村 美地有り

●別府川 海 ●魚橋村

●石室殿 魚橋村七丁々。又。ち。り。が。宮。と。い。ふ。言。こ。二。六。尺。三。寸。位。大。の。神。生。る。又。大。の。神。と。い。ふ。言。は。東。方。は。新。出。し。室。殿。合。り。下。り。有。り。終。て。魚。橋。の。出。村。出。す。れ。之。

●曾根天神 社。此。社。を。名。松。有。若。家。り。極。多。と。い。ふ。用。を。大。八。尺。三。寸。の。言。こ。一。丈。三。尺。四。寸。伸。入。也。●時光 十一丈。乾。石。五。七。丈。

寺 西。わ。き。ぐ。村。又。あり。浄。土。宗。寺。約。二十。石。

○阿弥陀が宮

加吉川宮 寺。家。町。西。宮。合。と。い。ふ。一。リ。

○加吉川 七騎塚 山のてにあり。壱。谷。判。官。高。木。村。の。北。の。西。宮。合。

豆湯 加吉川合。二。リ。△こまはたの一本寺 此。廿。六。番。の。札。不。法。の。寺。本。の。乃。あり。也。終。ぐ。

○後井村 ○佐土村

所着 豆湯合。一。リ。

▲姫路へ出て。壱。屋。形。出。

のうー西あり。書寫山あり

教寺 西園正七あり。延八百廿

基壇あり。性空上人窟

右四方あり。新町、

出るあり。入六里と

了りたも。必じて系あり

○破堰村

仁豊村

○大畑村

溝口村

○さくら

新町

右より板垣越増後也

王けあり。出あり

甘地

○近平村

○後渡村

屋形

右より乃を及。こ出

入江川あり。ま

○大内口村

○後本

栗賀村

買元洗の路あり

仏具と云名お茶つる

○戸田川 さくら

けしきよ。ほろ寺とて。加有
寺あり。元亨秋寺ふい。大
寺也。○よどどの。春日社
あり。是をう
ど。い。を。た

一本松 粟賀より
三十丁よ

○大山村 三村 ○ゆり橋

追上 一本松
一丁よ

○追上作とて。小坂あり。

立むゆり ○志乃村 長
五之

次二川あり。さくら橋あり。南
二大塚大の林乃宮ありなり

森垣 かい上
一丁

生野銀と乃。入口乃里。

口二川あり。さくら橋あり

○生野作 小坂之他橋の
さくらなり

○こと日 ○あふ

上津村子村 宿は一
本松あり

●岩舟谷観音 跡ありて
さくらあり

十八丁ち。より。又十八丁
より。だの村のわ。出 ○下津

村子村

山口村 上つむ
三十丁

○新井村 ○帯刀村

○桑市村 ○お始村

竹田 さくら
二丁よ

い。色。か。ゆ。ま。く。藏。出。に

又竹田様とて。藤末
みまんと出○牧田村

和回山 一リ

△こめて三回城と。終

合夥り。さきより。さよ

圖もどの。屋中附入。こ

回城のあまあし。ゆへ

さしあし。あしと出を

えり回 一リ八丁

まじ父 一リ八丁

総場 一リ

小回 廿丁

江のえ 小田方
十丁

江原 一リ

な色 一リ

納屋 一リ

豊岡 二十二丁

湯治 一リ

大板より湯治まで。卒

一里半八丁余り

此川丹波丹後
のさかふちあり

公産村

一ツ津カ

後智ふんがし船屋あり。町長
にあり。その後智ふんもふあり。
さざきんる ○たでつら村

河守

二丁カ

○外宮

河守の内へはま
ふし下有。名もあり。
雄田正一。年十月。神勅あり
て。おま年七月七日。今の伊勢
ふらうと。ゆん。 ○川田村

○二股村

内宮

河守カ
一ツリ

村の口より川有。又川と云。
橋成字活橋といふ。本社の

茅畑ありて。今のつせれ

どく。名居の服より

親方事。境内より理枝。

日本控。四本けき。相生

櫻。武本は猿とんり。孫ら

の志んこ橋。新加うどう。

表推れ。三本枝。杯有

▲社より。町へ。成りごと。

社をた入り。陸が。楳

を。た。り。ま。ん。て。ま。難。お。と

ゆ。多。み。六。丁。み。て。天

の。名。戸。又。い。ら。る。あ。小。社

あり。是乃石底之初生
鹽初生湯の釜といふ。
畠あり。是よりみ六丁
出く。佛生寺本村出。又
み丁を経て。土橋有。佛生
寺出村之。土橋城といふ
也。其城は。且い畠
也。其城は。をるる。を
も。其物あり。は。其用
佛生寺 宮中 四宮
一リ

○其社がゆり 其社社
有。其及

所。は。坂中。の。畠。也。○二世川
名。の。其。社。と。云。物。有。

是。畠。上。台。の。河。る。り。橋。城。王
と。は。は。其。社。及。ん。ま。は。は。た。
は。は。大。江。の。又。大。ヶ。嶽。鬼。塚
及。ん。十。町。身。終。て。鬼。が。池。洗。治
畠。之。社。の。社。終。ま。文。治。有。文
律。の。の。は。は。あ。ら。る。り。なり

○赤岩嶽

中の茶屋 佛生寺
廿丁

味まての坂。中。終。より。大
江。の。内。あり。○普甲味

長。難。有。る。ま。は。は。住。系。た。り。
下。り。十。町。み。丁。が。り。初。難。而。之
坂。の。内。は。増。井。と
い。ふ。名。あり

が。ん。と。う。茶。屋 宿 中茶屋
一リ

○園ヶ淵村 ○合山村

○小田村

上宮津村

づんどうが
廿八丁

是より穴付まで。並本松原
之。大のふれ。今編といふ。又
跡ありたり

宮津

上宮津か
一リ

松平孝直守後七方

河城下之毎時多て。毎々昌
地多し。借るを
多し。綿細と○宮津の林
多く織出ん
大己さき
少長名を

▲宮津の河原所と

竹人多し。名所と云
に。みとありてあり岩津
まで
四里あり。みちんかち。言
ふが。三百文まで。空なるし。

あらまし。ゆる人多し。くらとて
切を。まを。むらりかり

あなは。匠たれん人。

岩津と。むら有。頂津と

と。大の。を。丁。建。程

西より。た。陸。あり岩津
と三リ

赤文津か。岩津と。名

不。然。と。ぬ。系。合。と。あり。

を。人。系。十。文。位。か。は。十。文。
位。まで。空。り。あり

け。頂。津。越。と。ゆる。人。多。し。あり

○大乃いぬ車うま 坂乃いぬ人ひと

あり。波。浪。村。の。戒。岩。寺。と。切。寺
の。智。恵。寺。に。知。無。し。大。の。く。ら。ふ
と。と。云。林。乃
考。の。碑。之。者 ○いぬ 塚うま 合いぬ 乃
新うま 雜いぬ を

あがり。あまの松のまごかき。

まご江尻、舟を乗。一の宮

あねあり。船よのまぐ。並

本間。石乃らあまご

○江尻村名有。橋立は例儀

江尻といふ。○一の宮二位

の林といふ。是あねの坂口。右林

△江尻より。天気がくハ浦也

まごぐ。黒瀬生た。山海の外

あうなり。伊孫の浦。浦崎社

竹野郡細野村あり。法蓮の寺

のてふふふふふふふふふふふ

宮文殊。いはさの林。琴今深

溪。久の溪。右。久。久。久。久

員の湊。出。久。久。久。久。久

新。一日。路。路。路。路。路。路

びき。あり。病。病。病。病。病

細川。出。女。女。女。女。女。女

琴。ひ。き。き。き。き。き。き。き

施。谷。山。成。相。寺。親。善。院

統。正。い。ま。れ。お。ち。ま。は。草。剣。江。尻。分

● 國。分。ち。ふ。ふ。分。● 八。幡。宮。男

に。有。江。尻。分。ま。た

● け。二。ヶ。坪。切。り

ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご。ま。ご

○堺村 ○友成村 ○天

鴨山本丸寺 とら谷村
のわさみ

有。浄土宗。妙蓮の嘗基を
本号河弥隨の天仏あり

久員 くゝい
一リ

河代宮屋跡有。名物

小海松を賣る ○久員

味 三系味とも云所より十所
所と有八海之海軍。志経
意。丹後佐るふ境より。河鹿
より。浦と云るわにきさる

○飯谷味 あめ飯谷り長尾
氏の味なり

○飯谷村 久員が尾を
体不る

樂く浦 らくのうら
宮より 久員が
ニリよ

是の湯治をすむのる。系後
飯谷五人系指二文。あめの浦の

38-810

拾文湯治のあめの浦を
十一文飯谷を十三文之

湯治 あめ
す乃

後知ふ湯治よりて

乃法凡二十二里半二丁余

但宮津の名あとり四リ
加ゆりやう

湯治中之町

但馬 本弘所 崎屋勘助

宝曆十三 未 年十月

大坂よりらへり一丁目

書林 藤屋弥兵衛梓

